

# 畜産現場における防疫と家畜の管理について

熊本県立菊池農業高等学校 教諭 岩下 猛

## 1 はじめに

本部会は、一昨年からより専門性を高めるために「栽培系部会」と「飼育系部会」に分かれ、それぞれの分野で研修会を実施した。昨年度の「飼育系部会」の研修では畜産における繁殖技術の基礎から応用まで実施した。今年度は先生方より要望が多かった「家畜の飼養管理、防疫・衛生管理」と「乳牛・肉牛の審査」について講義や実習、視察を実施。県の城北家畜保健衛生所の先生方、先進的な経営をされている農家の方々にご協力いただき、より実践的な畜産技術の習得を目的とした。その研修内容について報告します。

## 2 研究の経過

### (1) 第1回専門部会

ア 期 日 平成29年6月9日(金) 会場 熊本農業高等学校

イ 参加者 5人

ウ 内 容 今年度の研究テーマ設定、専門部会研修の概要説明

### (2) 第2、3回専門部会

ア 期 日 平成29年8月16日(水)～17日(木)

イ 内 容

【1日目】(8月16日) 会場 菊池農業高等学校

(ア) 参加者 10人

(イ) 研修Ⅰ 家畜伝染病の発生状況及び飼養衛生管理基準について

講師 熊本県城北家畜保健衛生所 所長 平野 孝昭 様  
参事 前淵 耕平 様

(ウ) 研修Ⅱ 乳牛の審査について

講師 熊本県乳牛改良同志会 米野 浩二 様

(エ) 研修Ⅲ 肉用牛(黒毛和種)の審査について

講師 熊本県畜産農業協同組合中央支所 支所長 佐々木一浩 様

【2日目】(8月17日) 会場 菊池市、合志市の畜産農家4軒

(ア) 参加者 8人

(イ) 研修Ⅳ 先進農家視察①(乳牛) 松島 喜一 様

先進農家視察②(乳牛) 松田 仁 様

(ウ) 研修Ⅴ 先進農家視察①(肉用牛) 齊藤 清次 様

先進農家視察②(肉用牛) 瀧内 権二 様

## 3 研修の概要

### (1) 研修1日目

研修Ⅰでは城北家畜保健衛生所より2名の講師を招き、「家畜の防疫と衛生管理」についての講義を受講した。国内外の口蹄疫や高病原性鳥インフルエンザの発生及び防疫措置について、

過去の事例を2件紹介いただいた。平成22年の宮崎県における口蹄疫や平成26年の熊本県における鳥インフルエンザをもとに発生状況とその対応について詳しく説明された。ひとたび発生すれば、甚大な被害となるので日々の防疫措置の重要性を話していただいた。また、予防対策としての飼養衛生管理基準の重要ポイントについても細かく説明していただいた。午後の研修Ⅱ、Ⅲでは、乳牛、肉用牛の専門家より牛の見方について講義していただき、実際に乳牛、肉用牛を見ての審査会を実施した。

## (2) 研修2日目

研修Ⅳでは酪農家で搾乳ロボットを導入されている松田牧場を視察し、効率的な酪農経営について学んだ。次に伺った松島牧場はつなぎ牛舎で個体管理にも力を入れ、乳牛の改良に積極的に取り組まれていた。夏場の暑熱対策についても学ぶことができた。午後の研修Ⅴでは和牛の繁殖・肥育の複合経営や一貫経営について学んだ。瀧内牧場では常に新しいことにチャレンジしておられ、今回は県から委託されたコスト削減のための自給飼料の試験に取り組まれていた。現在、肥育素牛は10ヶ月齢で80万円近い高値で取引されているが、経費を削減しつつ、商品として如何に付加価値を高めるかなど、説明を聞きながら農業経営の難しさを感じた。

## 4 今年度のまとめ

今年度は、特に若手教職員に向けて畜産技術の基礎を身に付けてもらえるような研修内容とした。また、1日目には畜産教育を大いに語り、専門性の向上と同時に畜産関係職員の親睦を深めるため 懇談会も実施した。8月の研修後早速、2学期に生徒を連れて研修した農家へ視察見学に行かれた学校もあった。来年度以降、飼育系部会ではこれまで同様畜産技術の向上を目標に研修会を継続していく予定である。同時に2023年日本学校農業クラブ全国大会熊本大会家畜審査競技についての運営・競技両面についての研修なども今後企画したいと考えている。最後に、本部会の研修を快く引き受けていただいた講師の方々をはじめ会場を提供していただいた畜産農家の皆様方に心から感謝申し上げます。



【実際の乳牛審査】



【搾乳ロボットによる搾乳】



【大量の自給飼料】



【視察研修先】